

### #3 神の行動のための祭司とレビ人の奉仕

(民数記結晶の学び) 2019/3/11-17

**I. 民数記は奉仕の書であり、第3章と第4章は聖なる奉仕を扱っています:** **民3:6-7** **レビの部族を連れて来て、祭司アロンの前に立って彼に対して務めをさせなさい。彼らは集会の天幕の前で、アロンと全集団のために任務を守り、幕屋の奉仕をしなければならない。** **A.** 民数記には召会の奉仕の完全な予表があります。民数記における奉仕は召会の奉仕の絵です。 **B.** 奉仕が聖なるものであるのは、それが神の証しの幕屋を顧みるからです。 **C.** 聖なる奉仕の基本原則とは、奉仕は命に基づいているので、混乱がないということです。聖なる奉仕におけるすべては神聖な行政の下にあり、こういうわけでそれは良い秩序にあります。

**II. 聖なる奉仕は、祭司とレビ人によって遂行されました:**

**A.** 祭司は、油塗られた者であり、直接神に仕えました:

**1.** 祭司は、幕屋の前、東のほう、日の出るほうに宿営すべきでした。彼らは集会の天幕の入り口を護衛しました。神に仕えることを願う者はだれでも、祭司を通過しなければなりません。 **2.** 祭司は聖なる所(聖所と至聖所を伴う幕屋)の任務を守るべきでした: **a.** 「任務」という言葉は、責任を指しています。 **b.** 祭司が聖なる所の任務を守ったことは、彼らが聖なる所全体とそれに関連するすべてに責任があったことを意味しました。【**月**】

**B.** レビ人は直接、祭司であったのではなく、祭司職に仕える人たちでした: **1.** 祭司職、すなわち祭司の務めの中には、レビ人の奉仕を必要とする多くの事がありました。 **2.** レビ人の奉仕は、集会の天幕、すなわち、キリストと召会の予表である証しの幕屋を顧みることでした: **a.** 幕屋とその内容物を顧みることにおいて、レビ人は直接神に仕えたのではなく、直接神に仕えていた祭司職と祭司に仕えました。 **b.** 祭司は聖なる所と祭壇の任務を守るべきでした。レビ人は祭司の下で仕えて、聖なる所と祭壇を顧みました。

**C.** 証しの幕屋とそのすべての調度品と祭壇は、それに対して祭司が務めをしたものであり、キリストのすべての豊富の面における予表です。その方を、新約の信者は他の人たちに供給します: **エペソ3:8** **すべての聖徒のうちで最も小さい者よりも小さい私に、この恵みが与えられたのは、キリストの計り知れない豊富を、異邦人に福音として宣べ伝えるためであり。** **1.** 祭壇は、十字架を表徴し、キリストの贖いを指しています。幕屋は神の具体化としてのキリストを指しており、彼を通して、神は人の間に住み、人は神の中へと入って、神であるすべてを享受することができます。 **2.** 祭司とレビ人の務めは、常にキリストの豊富を人々に供給します: **a.** 務めをするとは、仕えることであり、仕えるとは、人々に対して務めをすることによって彼らに供給することです。 **II コリント 3:6** **神はまた私たちを新しい契約の奉仕者として、資格づけてくださいました。それは、文字ではなく、霊の奉仕者です。なぜなら、文字は人を殺しますが、その霊は人に命を与えるからです。** **b.** 新約の信者は、キリストの十字架をもって人に仕えて、贖いを得させ、キリストの豊富をもって人に仕えて、命の供給を得させます。【**火**】

**III. 民数記で描写されている聖なる奉仕は、活動的でないキリストのためではなく、とても活動的なキリストのためです。彼の活動において、また彼の行動において、私たちは彼に符合しなければなりません:** **A.** 祭司とレビ人には、幕屋が出立する時(それが前進する時)、特定の任務がありました: **1.** 祭司はレビ人を任命して、彼らの奉仕をさせました: **a.** レビ人は、彼らの方法にしたがってではなく、油塗られた祭司の導きの下で彼らの奉仕を行ないました。 **b.** これが示

しているのは、私たち、神に仕える新約の祭司が、自分の觀念にしたがってではなく、油塗られた見方の導きの下で、すなわち、私たちを油塗るその霊の導きの下で行動するべきであるということです。 **2.** 祭司は、主要なもの、最も重要なものを顧み、コハテ人(レビ人)は、いくらかの二次的なものを顧みました: **a.** 聖なる所の調度品を顧みすることは、主要なものを顧みることです。 **b.** 祭司は箱を顧みました。これはキリストを直接顧み、キリストを供給することです。 **c.** コハテ人は聖なる所の調度品を選びました。これは、今日、キリストの拡大としての召会について言っています。 **B.** キリストがどのように地上で行動するかを見るために、私たちは幕屋の動きを見るべきです: **1.** 幕屋は、レビの三人の子孫の肩の上で動きました。 **2.** 主は、私たちが箱と、聖なる所の調度品と、集会の天幕を担うことを通して行動します。 **C.** 神の新約エコノミーにおける原則とは、神は地上でのご自身の行動において、人が神に符合することを必要とするということです: **1.** 人がいなければ、神は何も行なうことができません。神は彼の新約エコノミーにおいて、人がいなければ、何も行ないません。 **2.** 神は人をご自身に符合させ、ご自身と一にならせ、ご自身と組み合わせなければなりません。これが神の新約エコノミーの基本原則です。 **3.** キリストは今日、全地で行動しており、ご自身と一である者たちと共に行動しています: **ヨハネ15:16** **あなたがたが私を選んだのではない。むしろ、私があなたがたを選んだのである。そしてあなたがたを立てた。それは、あなたがたが出て行って実を結び、あなたがたの実が残るためであり、あなたがたが私の名の中で父に求めるものは何でも、彼があなたがたに与えてくださるためである。使徒1:8** **「しかし、聖霊があなたがたの上に臨む時、あなたがたは力を受ける。そしてエルサレムにおいても、ユダヤ全土とサマリアにおいても、また地の果てまでも、私の証し人となる。」** **a.** 私たちは今日のゲルシオン、コハテ、メラリの子たちです。 **b.** 神の拡大のための神の具体化であるキリストは、彼を愛する人たちを通して行動します。【**水**】

**IV. 旧約には祭司とレビ人の間に区別がありました。新約にはただ一つの部類、すなわち、祭司の部類があるだけです:**

**I** **ペテロ2:5** **あなたがた自身も生ける石として、霊の家に建造されていきながら、聖なる祭司の体系となって、イエス・キリストを通して、神に受け入れられる霊のいけにえをささげなさい。** **9** **しかし、あなたがたは選ばれた種族、王なる祭司の体系、聖なる国民、所有として獲得された民です。それは、あなたがたを暗やみから、驚くべき光の中へ召してくださった方の美徳を、あなたがたが告げ知らせるためです。** **A.** 祭司は、幕屋が出立する時に、彼ら自身の任務を遂行することに加えて、レビ人を任命して彼らの奉仕を行なわせました。 **B.** レビ人が旧約の予表において行なった事を、新約の祭司としての信者たちも実際において行なうべきです: **1.** レビ人の奉仕が祭司の監督の下にあったという事実が示しているのは、新約の祭司が外側のレビ人の働きを行なうとき、新約の祭司職の内在的で霊的な見方の監督の下で、それを行なわなければならないということです。 **2.** レビ人の奉仕は、決して祭司の見方から分離されるべきではありません。外側の奉仕は、命を人に供給する霊的な活動とならなければなりません。 **3.** 私たちは祭司職の内在的な見方の下で、外側の事柄を行なうことを学ぶ必要があります。 **4.** 私たちは外側の、実行上の事柄を顧みているとき、命を他の人たちに供給すべきです。もし私たちがこのように行なうなら、私たちのレビ人の奉仕は祭司職の見方と監督の下にあります。 **C.** 人が神に仕えるとき、祭司の働きとレビ人の働きの両方が必要です: **1.** 一方で、私たちは霊的な奉仕にあずかります。他方で、私たちは実行上の諸事も顧みるべきです。【**木**】

2. あらゆる種類の奉仕の前にまず、私たちは祭司のように、主の臨在の中で仕えなければなりません。すべての奉仕は祭司的なものでなければなりません。

V. 民数記4:3、23、30、35、39、43の「奉仕」という言葉のヘブル語は、「戦い」であり、兵役に就くことを示します:

A. 祭司とレビ人の聖なる奉仕は、戦いです。  
 B. 神の福音の祭司として、私たちは自分自身が戦士であると考えべきです: 1. 私たちは、他の人たちに宣べ伝え、教え、成就し、キリストのからだを建造するとき、戦っているのです。2. 新約の祭司は戦士であり、私たちの祭司の奉仕は戦いです。

C. 私たちが神のために行なっている霊的な働きはすべて、それがどんな形であっても、霊的な領域の事柄に触れる限り、性質において戦いです: II コリント10:4-5 私たちの戦いの武器は、肉のものではなく、神の御前に力があって、要塞をも破壊し、神の知識に逆らい立っている議論や、あらゆる高ぶりを破壊し、あらゆる思想をとりこにして、キリストに対して従順にならせます。【金】

1. 福音を宣べ伝えること、聖徒たちを成就すること、召会の行政を執行すること、祈ることはすべて、一種の戦いです。2. 私たちの目が主によって開かれているなら、私たちは主に仕える私たちの働きの性質が戦いの性質であることを見るでしょう。

VI. 祭司であるアロンとその子たち、また仕えるレビ人に、褒賞、あるいは報酬が与えられました:

A. 祭司とレビ人はキリスト以外に何の分け前も持っていませんでした。キリストが彼らの家、嗣業、土地、衣服、食物、すべてでした。B. 今日、新約において、レビ人の奉仕は祭司職と組み合わせられています: 1. 祭司と祭司のしもべには何の違いもありません。キリストにある信者たちは、祭司と奉仕するレビ人の両方です。2. 私たちの祭司の奉仕とレビ人の奉仕に対する唯一の褒賞、唯一の報酬はキリストです。

II テモテ4:7-8 私は良い戦いを戦い抜き、行程を走り終え、その信仰を守り通しました。今からは、義の冠が私のために用意されているのです。かの日には、義なる審判者である主が、それを私に授けてくださいます。私だけでなく、主の出現を慕ってきたすべての人にも授けてくださいます。【土】

**用語の説明:**

(今週は全体的に長いので、「高い福音」の記載はありません)

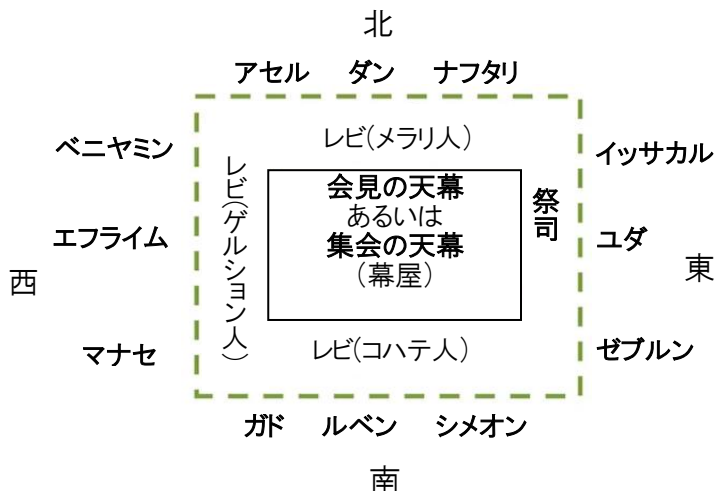
A. **祭司の奉仕:** 1. 祭司は、油塗られた者であり、直接神に仕えました。私たちは、すべての召会の奉仕において、まず祈って、聖霊によって油塗られることが必要です。2. 祭司が聖なる所の任務を守ったことは、彼らが聖なる所全体とそれに関連するすべてに責任があったことを意味しました。私たちは召会建造に必要な全ての奉仕に責任があり、勤勉に仕える必要があります。3. 祭司の務めは、幕屋の中の聖所と至聖所において神に仕えます。祭司の奉仕の意義は、自分自身を神に開き、神に内側に入ってきていただき、命の流れの中で他の人と共に建造されて、神に触れ、神で満たされ、神を他の人に供給することです。

B. **レビ人の奉仕:** 1. 幕屋とその内容物を顧みることににおいて、レビ人は直接神に仕えたのではなく、直接神に仕えていた祭司職と祭司に仕えました。2. コハテ人は聖なる所の調度品を運びました(ゲルシオン人とメラリ人は幕屋と祭壇の各部分を運びました)。これは、今日、キリストの拡大としての召会について言っています。

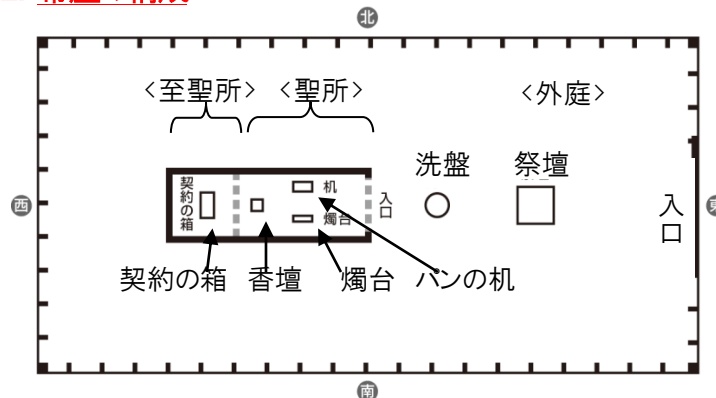
C. **新約の祭司職:** 1. 新約において、私たちは全員が祭司です。新約の祭司は、旧約の祭司の奉仕とレビ人の奉仕の両方を含んでいます。ローマ 15:16 それは、私が異邦人へのキリスト・イエスの奉仕者となり、神の福音の労苦する祭司

となるためであって、ささげ物である異邦人が聖霊の中で聖別されて、受け入れられるためです。2. レビ人の奉仕(実務的な奉仕)が祭司の監督の下にあったという事実が示しているのは、新約の祭司が外側のレビ人の働きを行なうとき、新約の祭司職の内在的で霊的な見方の監督の下で、それを行なわなければならないということです。

D. イスラエルの12部族の宿営と祭司とレビ人の配置の関係:



E. **幕屋の構成:**



幕屋は、外庭、聖所、至聖所からなります。1. 祭壇は十字架のキリストの経験です。まず私たちは罪を告白して、十字架上のイエスの血を適用し、自分自身を神にささげて、続くキリストの各面の豊かな享受の中に入るべきです。2. 洗盤の洗いは言葉の中の水の洗いを表徴しており、私たちが御言葉を祈り読みする時、言葉の中の水は私たちの天然の傷や古さを洗い去ります。3. その後、聖所に入り、机の上のパンを食べ、養われます。主の言葉は私たちの命のパンですので、毎日、御言葉を食べる必要があります。4. 燭台はあなたの内側を照らします。私たちは外庭で十字架を経験したとは言え、キリストを経験することで、さらにきめ細やかに内側の暗闇が照らされます。このような命の光が私たちを光の子供にします。5. その後、至聖所の前にある香壇に来て、キリストの功績(十字架上で罪を対処し、命を解き放ち、悪魔を滅ぼしたこと、復活において神の長子となり、多くの神の子たちを再生し、命を与える霊となったなど)である香をもって神に祈りをささげます。ここでの祈りは、神のエコノミーを推進するための祈りです。6. 最後に至聖所に入ると、そこに契約の箱、神の証しであるキリストがおられます。至聖所というのは、最も聖なる所であり、それは神が住まわれる所です。旧約の時代、大祭司が年に一度だけ至聖所に入り、神に会いました。しかし、新約では毎日、至聖所である自分の霊に戻り、神に会い、神に触れ、神の言葉を聞くことができます。祭司が幕屋でのこれらの六つの点で奉仕することは、彼らがキリストの豊富を経験し、イスラエルの民にキリストの豊富を供給して、新エルサレムを建造することを言っているのです。

## Crucial Point①:新約の労苦する福音の祭司

OL1 : 新約において、私たちは全員が祭司です。新約の祭司は、旧約の祭司の奉仕とレビ人の奉仕の両方を含んでいます。私たちは奉仕において、勤勉で厳粛であるべきです。ローマ 15:16 **神の福音の労苦する祭司**となるためであって、12:11 熱心で怠ることなく、霊の中で燃え、主に仕えなさい。

OL2 : 祭司の務めは、幕屋の中の聖所と至聖所において神に仕えます。祭司は自分自身を神に開き、神に内側に入ってきていただき、命の流れの中で他の人と共に建造されて、神に触れ、神で満たされ、神を他の人に供給する人です。

OL3 : コハテ人は聖なる所の調度品を運びました(ゲルシオン人とメラリ人は幕屋と祭壇の各部分を選びました)。これは、今日、キリストの拡大としての召会について言っています。

民数記には召会の奉仕の完全な予表があります。私は、主が私たちの目を開いて、民数記と比較して言うなら、召会の奉仕において私たちがいくらか怠慢であったことを見せてくださるようにと望みます。霊的な原則に関して、私たちはそれほど厳粛でも、厳格でも、正しくありませんでした。私たちが無意識的に間違いを犯すことは、神の祝福の多くを失ったことの原因となり得ます。神に仕えることで、私たちは怠慢であるべきではなく、厳粛であるべきです。私たちはみな、特に若い人たちは、神の奉仕についての霊的な規定と霊的な法則を学ぶ必要があります。

レビ人は聖なる所と祭壇を顧みること、祭司の下に仕えていました。例えば、イスラエルの子たちが行動するように命じられたとき、レビ人は荷造りし、幕屋とそのすべての調度品を運びました。民がある特定の場所に着いたとき、レビ人は幕屋とそれに関するすべてのものを設置しました。

証しの幕屋とそのすべての調度品と祭壇は、それに対して祭司が務めをしたものであり、キリストのすべての豊富の面における予表です。新約の信者たちはこのキリストを供給します。幕屋は天幕であり、祭壇は外庭に位置しており、犠牲が神にささげられた所です。祭壇はキリストの贖いを指しており、幕屋は神の具体化としてのキリストを指しており、彼を通して神は人の間に住み、人は神の中へと入って、神であるすべてを享受することができます。

キリストは今日、全地で行動しておられます。「聖霊があなたがたの上に臨む時、あなたがたは力を受ける。そしてエルサレムにおいても、ユダヤ全土とサマリアにおいても、また地の果てまでも、私の証し人となる」(使徒 1:8)。福音を宣べ伝える者はみな、実はキリストの証し人です。

神の拡大のための神の具体化であるキリストは、彼を愛する者たちを通して行動されます。もし私たちが行動しないなら、彼は行動することができません。彼は私たちの内側で縛られ、獄に入れられさえします。もし私たちが行動しないなら、私たちは主にとって獄となります。

### 中高生/大学生編

**熱心に主に仕える:** まずあなたは、救われた人(救われる前の小学校5年生を含む)として、熱心に主に仕えるべきです。奉仕にはキリストを人々に供給する祭司の奉仕と、レビ人の奉仕のような事務的な奉仕があります。あなたは新約の福音の祭司としてどちらも行ってください。あなたは、「自分は若いので特に奉仕をする必要はない」と言うてはいけません。若い時から熱心に主に仕えることを学んでください。

**祭司の奉仕:** あなたは学校の勉強でキリストを知恵、忍耐力、行動力、理解力、集中力などとして経験して、友人にこれらのキリストの経験と関連の御言葉を福音として宣べ伝えるべ

きです。このことを実行する前に、LINE などの祈りのグループで友人のためによく祈り、油塗られることが重要です。

**レビ人の奉仕:** あなたは集会に早く来て、椅子を並べたり、掃除をしたり、プリントを作成し、椅子の上に配ったり、食事を用意したりするレビ人の奉仕にも積極的に参加してください。あなたがレビ人の奉仕を行う時、次のように祈るべきです、「おお主イエスよ、私は椅子の上に今日のプリントを配っています。配るとき、丁寧にきちんと配ります。ここに座った人が主を豊かに経験できますように。レビ人の奉仕についても、人に命を供給する霊的な活動として行います」。

**行動するキリストに従って、召会は行動しなければならぬ:** あなたは新約の労苦する福音の祭司となり、旧約の祭司の奉仕とレビの奉仕の両方を行い、キリストの行動についていく必要があります。例えば、あなたは福音のために多く祈る必要があります。しかし、祈った後、あなたは出て行って福音を伝える必要があります。主は全地で忙しく動いておられますが、あなたが聖霊で満たされ、主と一つになり、出て行って福音をしなければ、主は行動することができないのです。イスラエルの民は幕屋という移動式の建物を中心に動いており、度々、移動したので、レビ人は大変忙しかったはずですが。神戸に在る召会は毎月、1週間福音を伝えています。これらの機会を捉えて、あなたも福音活動に参加してください。

**祈り:** 「おお主イエスよ、私を新約の労苦する祭司にしてください。あなたの感謝します。キリストは全地で活発に活動しています。キリストに従って、労苦し、行動し、戦うために、祭司職とレビ人の勤勉な奉仕が必要です。このためにまず私はあなたの臨在の中で、時間を費やし、あなたと交わります。キリストで満たされ、キリストを流し出す方法ですべての奉仕を行います。召会生活における私たちの福音の宣べ伝え、1対1の牧養、新エルサレムの建造を祝福してください！」

**Crucial Point②:福音は霊的な戦いです。戦いのために、まず主の臨在の中で時間を費やし、主との個人的で、愛情に満ちた交わりを持ち、主の御声を聞き、主で満たされるべきです**

OL1 : レビ人の奉仕(実務的な奉仕)が祭司の監督の下にあったという事実が示しているのは、新約の祭司が外側のレビ人の働きを行なうとき、新約の祭司職の内在的で霊的な見方の監督の下で、それを行わなければならないということです。

OL2 : 祭司とレビ人の聖なる奉仕は、戦いです。神の福音の祭司として、私たちは自分自身が戦士であると考えるべきです。

OL3 : 私たちは、他の人たちに宣べ伝え、教え、成就し、キリストのからだを建造するとき、戦っているのです。新約の祭司は戦士であり、私たちの祭司の奉仕は戦いです。

軍隊は祭司的でなければなりません。使徒は祭司的でなければなりません。伝道者は祭司的でなければなりません。言葉の務めは祭司的でなければなりません。長老と執事は祭司的でなければなりません。兄弟たち、また姉妹たちは祭司的でなければなりません。夫、妻、親、子供たちは祭司的でなければなりません。これが意味することは、ただ主の奉仕において、私たちはまず自分自身を主に開き、彼の臨在の中で時間を費やさなければならないということにほかなりません。これは、主が私たちに満たし、浸透し、さらには飲み尽くすことができるようにさえします。それは私たちが主と一になるためです。そうすれば、彼は私たちの内容となり、私たちは彼の表現となります。私たちが戦っていても、福音を宣べ伝えていても、言葉を教えていても、長老や執事として奉仕していても、彼は私たちを通して何かを言い、また私たちの内側から何かを表現す

ことができます。私たちは何であつても、主が流れ出るための経路となるでしょう。これは私たちの生きる方法、働きの方法、奉仕の方法でなければなりません。

民数記 4:3、35、39、43 の「奉仕」という言葉のヘブル語は、「戦い」であり、兵役に就くことを示します。ですから、祭司とレビ人の聖なる奉仕でさえ、戦いの中にあつたのです。今日、神の福音の祭司として、私たちは自分自身が戦士であると考えべきです。私たちは、他の人に宣べ伝え、教え、成就し、キリストのからだを建造しているとき、戦っているのです。新約の祭司は戦士であり、私たちの祭司の奉仕は戦いです。

神の王国とサタンの王国の間に戦いがあるので、私たちが神のために行なっている霊的な働きはすべて、それがどんな形であっても、霊的な領域に触れる限り、性質において戦いです。例えば、福音を宣べ伝えることは、使徒 26:18 によれば、「**彼らの目を開き、彼らを暗やみから光へ、サタンの権威から神に立ち返らせる**」ことです。このことが示しているのは、福音を宣べ伝えることが単に人の目を開き、暗やみから光へと向きを変えさせるだけでなく、サタンの権威から救い出すことでもあるということです。コロサイ 1:13 も、「**御父は私たちを暗やみの権威から救い出して、彼の愛する御子の王国に移してくださいました**」と言います。暗やみの権威から救い出されるとは、サタンの勢力、あるいはサタンの王国から救い出されることです。そして彼の愛する御子の王国に移されるとは、神の王国に移されることです。ですから、福音を宣べ伝えることは完全に霊的な戦いであり、人の中のサタンの勢力を追い払い、神の王国をもたらすことです。…人は救われるとき、第一に主の御名を信じます。第二に彼は主の御名を呼びます。第三に彼は主の御名の中にいます。すなわち、彼は主の御名に属します。このゆえに、彼はサタンの勢力から救い出され、主の御名に属しています。

### 在職青年/大学院生編

**福音の戦いの前に、主との個人的で、愛情に満ちた、親密な交わりを強化しなければならない** : 3月28日(木)午後から4月28日(主日)までの一か月間、キャンパス福音(神戸大、松陰大、甲南大、神戸国際大など)を行います。3月の福音活動の準備の期間において、あなたはまず主に開き、主に触れ、主で満たされるために、主の臨在の中で主と個人的で、愛情に満ちた、親密な交わりを持ってください。祭司は主に開き、主で満たされ、主を流し出す人なので、まず主の臨在の中に入り、主との親密な交わりが必要です。4月の1か月の福音開展月間のために、3月4日から24日までの3週間をかけて「**主との親密な交わりを強化する3週間**」にします。祈り:「**おお主イエスよ、あなたは私の愛する婚約者です。私はあなたを愛します。私は霊の中であなたの御顔を見つめます。あなたとの親密で愛情に満ちた交わりを持ちます。私の心を開き、あなたとの親密な会話を享受します。私にレーマの言葉を語り掛けてください。あなた自身を私の中に注入してください。このような主との交わりが私たちの福音の戦いのための正しい準備です。アーメン!**」

### 補 305(中補 305) 主よ、うるわしさのゆえ

1. 主よ、うるわしさのゆえ わがころをひらく、いま、宗教よりとかれて ただながうちに住む、主の栄光を見上げつつ かがやきにみたされん、わがうちに浸透しませ なれとわが霊ひとつ。
2. 主よ、すみわたるそらに ひとの子を御座に見ん ほんのおもて焼き尽くせ 主のみ、かがやくまで なれの栄光を見るとき 自己愛、恥じて失せぬ なが名のあまさ、知りて あいと 賛美をささぐ。

3. 主よ、わが石膏のつぼを よるこびもて、くだかながこうべにこの香油を いとも良きものとしながため無駄にそそぎ ふかきあいに満ちぬ あたい、たかきあぶらを さらに、たくわえたし。
4. 主よ、香の山で、かおを 合わせてまみえたし わがいずみ、飲みたまえ ながむねに、いこうまではなよめなる聖徒らは ともに 主をば あおがん 主よ、いそぎきたりませ わが愛はなれを待つ。

### 169 主を賛美する — 彼に満足する (英 208)

1. イエスはわがいのち、 なが愛の一ゆえ、 ひと日に一せんかい、 御名をさ一げばん。(復) イエス、さい愛の主にくらぶるものなし; なれのえがお見て、 われよる一こばん。
2. いかにか愛すべきか、 われ知ら一ねど、 火のごと一きあいは ころろ燃一やす。
3. イエスわがすべてぞ、 依りたの一む主、 ころろ一たうもの、 とわのち一から。
4. 燃えるあいの火は にち夜つ一のり、 他のあい一すべてを 焼き尽く一しぬ。
5. わがあいなるイエス、 またわが一うた; その価値一をだれか 知るを得一んや。
6. このあい、 なににも 制限を受一けじ; 主のあま一き価値は きのうにま一さる。

### 643 Encouragement - For Fellowship with the Lord (Jap 477)

1. Take time to behold Him, Speak oft with Thy Lord, Abide in Him always, And feed on His Word. Wait thou in His presence, Submissive and meek, Forgetting in nothing His blessing to seek.
2. Take time to behold Him, The world rushes on; Spend much time in secret With Jesus alone. By looking to Jesus Like Him thou shalt be; Thy friends, in thy conduct, His likeness shall see.
3. Take time to behold Him, Let Him be thy guide; And run not before Him Whatever betide; In joy or in sorrow Still follow thy Lord, And, looking to Jesus, Still trust in His Word.
4. Take time to behold Him, Be calm in thy soul, Each thought and each temper Beneath His control. Thus led by His Spirit To fountains of love, Thou then shalt be fitted His mercy to prove.

### 香ばしい証し

過去20世紀以来 千万の貴重ないのち ころろのたから、高貴な地位 かがやかしい前途 主イエスに無駄づかいされてきた 主を愛すものに、主は愛らしく すべてささぐ ささぐにふさわしい 主にそそいだのは 無駄でない こうばしいあかし あまき主 あかしす

マタイ 26:12 彼女がこの膏油を私の体に注ぎ出したのは、私の葬りのためにしてくれたことだ。13 まことに、私はあなたがたに言う。この福音が全世界のどこで宣べ伝えられても、この女が行なったことも、彼女の記念として語られる。

26:8 弟子たちはそれを見ると、憤慨して言った、「なぜこんな無駄遣いをするのか？」

FN「無駄遣い」: 弟子たちは、主にささげたマリヤの愛を無駄遣いと考えました。過去二十世紀を通じて、幾千幾万の貴重な命、心の宝、高貴な地位、輝かしい前途が、主イエスの上に「無駄遣い」されてきました。そのように主を愛する者たちにとって、主は全く愛らしく、彼らのささげ物にふさわしい方です。彼らが主の上に注いだ物は、無駄遣いではなく、主の甘さの香ばしい証しです。